

地域活動実施報告書 (A)

令和3年2月22日

メンバー (所属) ○=代表者	○ 神谷睦代 (人間生活学部 子ども学科) 山本大寛 (新潟市東区役所地域課産業文化振興室)
--------------------	---

活動テーマ

新潟市東区役所エントランスにおけるクリスマスツリー飾りつけ

活動の目的

この活動は東区役所の依頼により、平成27年より毎年11月～12月にかけて行われている連携事業です。活動の目的は、学生が授業で学び制作した造形作品を地域で展示することを通して、公的な場でのイベントに合わせた環境づくりの意味や地域貢献の意義を知ることです。同時に、役所を訪れる人々（子どもから大人まで）が、学生手作りの飾りによるクリスマスツリーを囲んでその気分や楽しさを味わい共有することで、学生と地域住民間のコミュニケーションの活発化も目指しています。

活動の内容

【活動の様子】

活動内容は、クリスマス飾りの制作と飾りつけの二つに分けられます。まず、制作は10月から子ども学科1年生51名と3年生10名の造形関係の授業及び神谷ゼミの学生3名で行いました。1年生は一人につき、身近な材料（新聞紙や紙皿、折り紙、モール、リボン等）を用いて布製と紙製の2種類のリースを制作。3年生とゼミ生は、自然物（まっぼっくり等）も用いて、小さいながらも本格的なリース作りに挑戦しました。各々が心を込めて仕上げた飾りは総数150個近くになりました。



飾りつけの作業は、2020年11月19日(水)の17:00～18:00に、子ども学科1年生有志10名と教員、東区役所担当職員によって行われました。学生たちは区役所が用意してくれていたサンタ帽子をかぶって、一足早いクリスマスモードの中で和気あいあいと作業を進めていきます。脚立を登り降りしながら、最初はツリーに無造作に飾りをつけていき、次は遠くから眺めながら全体のバランスを整えていきます。最後に、金や銀のモールを巻いて完成です。ツリーは約4メートルの高さがありますが、その大きさに負けない豪華な飾りつけとなりました。

尚、クリスマスツリーは11月19日(水)より12月25日(金)まで展示され、本年はコロナ感染症対策の下、色々と制約がある中でしたが、多くの地域の皆さまに楽しんでいただくことができました。

【メディアでの紹介】本活動について広くご紹介くださいました新潟日報社様に御礼申し上げます。

- ・新潟日報朝刊 (2020年11月26日)「地ラボニイガタ VOL. 2～地域を盛り上げる学生たちにエールを！」の特集に掲載
- ・新潟日報朝刊 (2020年12月4日)「待ち遠しくなる彩り」として記事掲載
- ・東区だより『わいわい東区』NO. 327 (2020年12月6日発行)の「東区ギャラリー」のコーナーに掲載

地域活動実施報告書 (A)

令和3年3月19日

メンバー (所属) ○=代表者	○ 山中知彦 (新潟県立大学国際経済学部国際経済学科) 黒坂愛衣 (東北学院大学) 佐藤忍 (横浜教育会館) 他
--------------------	---

活動テーマ

写真パネル巡回展「帰還困難区域に生きる」

活動の目的

- ①東京電力福島第一原子力発電所事故から10年を迎え、原発から最も遠い飯舘村長泥行政区をはじめとする福島県阿武隈高地に残された帰還困難区域の事故前後の記憶を広く県外に伝えるために、東日本の5都市(さいたま市・仙台市・横浜市・東京都新宿区・新潟市)を巡る写真パネル巡回展を実施する。
- ②当地域で住民たちは、豊かな自然の中、互いに協力して受け継がれてきた歴史や伝統、文化を大切に、地域に根付いた生活に楽しみを見だし、生きがいを感じて暮らしてきた。しかし、原発事故はこれら的一切を根こそぎ奪い、住民たちはふるさとへの痛切な想いを胸に、異郷で避難生活を送らざるを得ない現状にある。この間にも、地域内では荒廃が一段と進む一方、一部中心集落では、国の復興拠点事業による除染作業の進展に伴い建物の解体が進められている。懐かしいふるさとは、住民不在のまま、大きな変貌を余儀なくされている。風化する被災地域の情報を、新潟会場での本学学生や5会場での一般市民に広くわかりやすく伝えることにより、地域社会の意味を考えてもらう契機とする。
- ③本学所属の教員の地域貢献活動成果を公開することにより、本学の認知度を上げる。

活動の内容

会場・会期 (会期順)

さいたま：埼玉会館第2展示室 1/29~1/31

仙台：仙台市福祉プラザ2階展示ロビー 2/20~2/23

横浜：横浜シビルプラザ (横浜そごう9階) 2/25~2/28

東京：早稲田スコットホールギャラリー 3/3~3/7

新潟：新潟市民プラザミニギャラリー (NEXT21 6階) 3/11~3/15

主催：帰還困難区域写真パネル巡回展ネットワーク

事務局：山中知彦 (新潟県立大学国際経済学部) E-mail: yamanaka@unii.ac.jp
Cell. 090-7408-6393

共催：飯舘村長泥行政区・認定NPO法人 未来といのち

後援：新潟県立大学

対象者：一般市民 (入場無料)

成果物(冊子等)：A4 フライヤー2種、A3 ポスター2種、Instagram特設サイト、blog



主な広報(マスコミ掲載など初回報道順)

朝日新聞(3回)、産経新聞(3回)、埼玉新聞(3回)、テレビ埼玉、東京新聞、河北新報、NHK(2回)、神奈川新聞、毎日新聞(2回)。読売新聞(2回)、新潟日報(2回)、テレビ新潟他

活動の反響

来場者の中からパネル貸与の申し出があり、埼玉県さいたま市・岡山県津山市・新潟県村上市・神奈川県川崎市でアンコール展が開催されることとなった。また、2021年5月にさいたま市で、アンコール展主催団体の要請を受け、公開研究会が開かれる予定となっている。

地域活動実施報告書 (A)

令和3年3月31日

メンバー（所属） ○＝代表者	○ 神谷睦代（人間生活学部子ども学科） 齋藤裕（人間生活学部子ども学科） 田中枝緒・中嶋桃子・吉川千遙・小林日向子（人間生活学部子ども学科） 皆澤里美（新潟日報事業社）
-------------------	---

活動テーマ

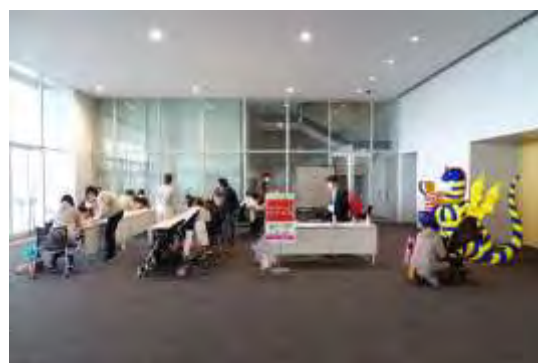
「絵本ワールド in にいがた」（主催：新潟日报社／協力：新潟県立大学／会場：朱鷺メッセ）における親子を対象にした造形ワークショップの開催及び会場アーケイド設営・絵本キャラクターパネル展示

活動の目的

本学人間生活学部子ども学科の教員と学生による造形的学びの成果を公共の場（イベント）において、ワークショップ開催や制作物を通じて発表することで、「地域の子どもの絵本や造形表現活動への興味・関心・楽しさを喚起し、それによって子どもの感性や日々の生活を豊かにする」ことを目指しています。

活動の内容

本活動は、準備として2021年2月12日に神谷准教授と学生3名が、ワークショップで行う工作の見本品制作や配布材料の仕込みを大学で行いました。3月27日（土）の開催日は、メンバーはオープン前に、アーケイドの設置やパネルの展示を済ませ、一息ついたところで9時30分：開場となりました。午前中2回の造形ワークショップでは齋藤教授が「マジックキューブ」を、午後からの3回は神谷准教授が「びっくり！キラキラドーム」を披露しましたが、どの回もキャンセル待ちが出るほど好評でした。学生も子どもたちから、ひっきりなしに声がかかり大人気です。一方、受付の横に設置された「エルマーとりゅう」のパネル前では、たくさんの親子が写真撮影を行い、辺りは笑顔であふれていました。子ども学科の教員と学生は、2015年から毎年11月の第三日曜日に開催される本イベントに協力・参加しています。本年は新型コロナウイルス感染症対策により開催時期を3月末に延期し、活動場所はホールからロビーに移し、参加定員数も大幅に少なくしての取り組みでした。コロナ禍の中、例年にも増してこのような形での地域へのかかわりや子どもたちとの触れ合いの大切さを、教員も学生も実感した一日でした。今回の造形ワークショップにご参加いただきました親子の皆様、誠にありがとうございました。



（齋藤教授「マジックキューブ」）



（神谷准教授「びっくり！キラキラドーム」）



【メディア等での紹介】本イベントを広くお知らせいただきました、新潟日报社様に御礼申し上げます。

- ・新潟日報フリーペーパー「assh」：2021年2月11日・2月25日・3月12日・3月25日
- ・新潟日報朝刊：2021年3月11日・3月18日・3月24日・3月25日
- ・新潟日報WEB・アプリ「にいがた、びより」

【成果】

・「絵本ワールド in にいがた」実施報告書：新潟日報社編

【チラシ (A4 サイズ) ・ポスター (A2 サイズ)】

絵本との楽しい出会いがいっぱい!

絵本ワールド
in にいがた

3/27(土) 入場無料
9:30~16:00
（午後開場 12:30~15:00）

石津ちひろさん 講演会

朱鷺メッセ スノーホール、中小会議室

新潟日報社 広告部 TEL.025-385-7474

〈表面〉

絵本ワールド
in にいがた

イベントのスケジュール

時間	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
10:00	絵本ワールド in にいがた 開場						
11:00	絵本ワールド in にいがた 開場						
12:00	絵本ワールド in にいがた 開場						
13:00	絵本ワールド in にいがた 開場						
14:00	絵本ワールド in にいがた 開場						
15:00	絵本ワールド in にいがた 開場						
16:00	絵本ワールド in にいがた 閉場						

石津ちひろさん 講演会

講演 絵本のためのしみ・言葉のためのしみ

中島伸子 講演会

講演 『絵本』を讀むに楽しい子育て

新着 申込制

子ども大事発見

子育てのヒントが隠れている本もあるよ!

会場 朱鷺メッセ スノーホール

お問い合わせ 025-385-7474

〈裏面〉

地域活動実施報告書 (A)

令和3年4月17日

メンバー (所属) ○=代表者	○ 植木信一 (子ども学科) 嶋山典子 (新潟市児童センター) 地域住民ボランティアスタッフ (児童育成・万代クラブ)
--------------------	---

活動テーマ

児童館を拠点とした地域組織活動による多世代交流プログラム

活動の目的

児童館 (新潟市児童センター) は、子どもたちが自由に利用できる地域に開かれた社会資源である。職員 (児童厚生員) が常駐しているが、人数が限られているため地域に開かれた機能を十分に果たすことには限界がある。そこで、地域住民で構成されたボランティア団体 (児童育成・万代クラブ) を組織し、児童館と地域住民との協働によって、地域に開かれたプログラムを実施する。

活動の内容

しばらくの間コロナ禍での活動制限がつづいたため、三密を避けられない大規模プログラムは中止したが、後期からは、小規模プログラムを中心に少しずつ活動を再開した。

スタッフはもちろんのこと、参加者への体温測定、手指消毒のほか、会場の換気やパーテーション利用などを徹底し、プログラムの定員も従来の50%以下にすることによって活動を進めた。

地域住民で構成されたボランティア団体である「児童育成・万代クラブ」の協力により、児童館にさまざまな制限のかかるなかで多様なプログラムを実施することができた。

具体的には、①オセロプログラム、②読み聞かせプログラム、③折り紙プログラム、④将棋教室プログラム、⑤カプラブロックプログラム、⑥けん玉チャレンジプログラムなどの小規模プログラムを実施した。一方で、あそびフェスティバル、もちつき会、まめまき会などの大規模プログラムは中止した。

例年であれば、児童育成・万代クラブのメンバーが通年で各種プログラムを定期的実施している。上記のように本年度前期は、ほぼすべてのプログラムを中止したが、地域連携センター地域活動支援事業の助成を受けることにより、後期からのプログラムをスムーズに再開することができた。

活動拠点である新潟市児童センターは、本学子ども学科の実習施設でもあるため、学生たちが実習終了後においてもボランティアとして各種プログラムに継続的にかかわることが多い。本学学生たちとともに本事業をすすめることが可能であり、教員と学生が協働する新潟県立大学の地域貢献活動をアピールすることにつながることを期待されたが、コロナ禍の収束が見通せなかったため、学生ボランティアのかかわりは大幅に制限せざるを得なかった。次年度については、条件がそろえば、本年度の経験を活かしながら、学生ボランティアの参加も受け入れられるよう検討したい。



地域活動実施報告書 (A)

令和3年4月26日

メンバー (所属) ○=代表者	○ 小池由佳 (新潟県立大学人間生活学部子ども学科) 【事業分担者】 ・中澤小春 (新潟県立大学人間生活学部子ども学科4年) ・小池茜 (新潟県立大学人間生活学部健康栄養学科4年)
--------------------	---

活動テーマ

子ども食堂の運営による「地域共生社会」の実現をめざして

活動の目的

・本学学生が主体的に取り組んできた「そらいろ子ども食堂」がコロナ禍でこれまでの活動を休止せざるを得ない状況となった。一時的な休止を挟みつつ、令和2年7月からは食材配布・個での遊びの提供へと方法を変え、月に2回の活動を継続している。今後、コロナ禍において新たな生活様式に準じた会食型の子ども食堂のあり方について、検討・準備することが今回申請した事業の目的である。

活動の内容

・令和2年度は、新型コロナウイルス感染対策や新しい生活様式での注意事項を確認しつつ、7月以降、月2回の食材配布と遊びの提供を継続することができた。活動では、そらいろ子ども食堂に親と一緒に来た子どもたちに遊びの提供を行ってきた。これまでとは違う遊び方となったが、子どもたちからは楽しみにしている声をきくことができた。



・本事業申請に伴い、次年度以降の活動方針について検討を行った。その中で、会食型の子ども食堂の再開を検討している。具体的には、①新しい生活様式に準拠した子ども食堂の運営方法について、これまでの運営方法と比較し、どのような点に配慮が必要かの確認を行う。②その際に必要となる備品について、順次整えることとした。ソーシャル・ディスタンスを保ちつつ、より安全な環境を整えるための備品を用意する。令和2年度については、アクリル板の購入を行った。これを用いながら、実際、今の会場をどのように設定することで、参加者・運営者の双方の健康を担保しながらの会食が可能か、今後検討を行うこととしている。



本事業報告作成時、新潟市では、日々コロナ感染者が増加している報告がなされ、飲食店には、時短営業の要請が出ている。本事業申請時より、感染状況は深刻化している。会食型の子ども食堂の再開が困難な状況となりつつある一方、生活に困窮する人たちは増加していることが懸念される。そのことは、今活動している食材提供の利用者が増えていることから明らかである。